



たくさんの可愛いオバケたちに
囲まれて、楽しいひと時 ♪



ハロウィン



ハロウィンまたはハロウィーンは、毎年秋に行われる祭りです。カボチャを飾り、子どもたちが魔女やオバケに仮装して、近くの家々を訪れてお菓子をもらったりする風習があります。双葉苑も、たくさんのオバケで賑わいました。

ふたばよもやま話 (第三十三回)

～平尾台の伏流水～

伏流水とは、河川の底部または側部などの砂礫層を潜伏して流れている水のことをいいます。つまり、表面を流れているのが表流水で、河床や河川敷の下を流れているのが伏流水です。伏流水は地中で自然の濾過が行われるため、表流水に比べて、水質が良好であるとされています。

日本を代表するカルスト地形の平尾台は台地状の山。山上に降った雨は地中にしみこみ、伏流水となり、長い時間をかけ、やがて麓の複数箇所ではミネラル豊富な湧水として再び地表に姿を現します。

小倉南区市丸にある『大清水（おおしょうず）神社』。境内の説明板には、「平尾台山麓には古来より涸れることのない霊泉があり、禊の聖地としている。大宰府から使いがきて幣帛を奉納する習わしがある。」と記されています。

農業にはもちろん、人間の生活に欠かせない“水”は、神聖なものとして信仰の対象でした。

大清水神社神楽殿の下からは、現在も、神代の昔から変わらぬ清水が湧き出しています。



石灰岩で構成されている平尾台。神社の背後では、良質な石の採掘が行われている。



神楽殿の下より湧き出す清水は、平尾台に降った雨水が数十年かけて濾過され湧き出したもの。

『生活の舞台』 第一回目・ホール
好評だった職員紹介の連載ですが、今回からは少し趣向を変えて、入所者様が普段どのような環境で生活しているのかを知っていただくため、「生活の舞台」という新連載を始めました。どうぞよろしくお願いいたします。

入所者様が、日中、時間の大部分を過ごされる、通称「ホール」。双葉苑には、大きく分けて4つのホールがあります。

食事はもちろん、塗絵やパズル等の趣味、入所者様同士の談話、テレビ観賞など、思い思いの時間をリラックスして過ごせるよう、また入所者様の移動も安心して行えるよう、スペースをゆつたりと確保しています。さらに、テーブル類を片付けて「大ホール」とし、様々なイベントを行ったりもしています。

天窓から優しい光が入る明るいホールには、今日も、入所者様とスタッフの明るい笑顔の花が咲き乱れています。



広々とした明るいホール。



今月の予定 (11月)

石橋胃腸内科医院 回診 (毎月曜日)

10日、17日

ますゆき皮膚科クリニック 回診

6日(木)

小倉南歯科医院 回診 (毎火・木曜日)

4日、6日、11日、13日、18日、20日、25日、27日

ビューティヘルパー (訪問理美容)

11日(火)

防災避難訓練

19日(水)

【編集雑記】▼本号取材のため大清水神社を訪れた日、神楽殿ではしめ縄づくりが行われていた。本年もあと二か月で終わり、新しい年が来る。平尾台に降った水が長い年月をかけ山麓に湧き出した水で育った稲の穂で作るしめ縄。しめ縄作りの場となっている神楽殿下からは清冽な湧水が湧き出し流れている。この水は来年も稲を育て、人々の生活を育む。日本人の生活の原点を見た思いであつた▼近年、ミネラルウォーター、自然水などと謳われた湧き水がブームである。どこぞの湧き水が美味しくて、ご飯を炊いたら美味と、遠方までわざわざ汲みに行く人も多い。また販売されている水には、「雨水が〇〇年地中で濾過された名水」などと記されているものもある。この年月、誰がどうやって測るのだろうという素朴な疑問がある▼かねてより疑問に思っていた事を知り合いの地質学者に聞いたことがある。土質による水の通過速度、水量、地形など総合的に計算し、山上に降った雨水が離れた距離に湧き出す迄の時間を推測する計算方法があるという。何も見せかけで年数を書いているのではないようだ▼自然の営みは実に雄大である。スケール感も人間には想像できない。平尾台も造山運動で造り出されてから数億年、数十億年を経て現在の姿になったのだろう。それに比べたら人間の一生など瞬きほどの間。だからこそ我々は入所者様と一緒に、今を大切にしたいものである。